20211128　　猪高の森自然観察会　2021 年 11 月報告書

猪高の森自然観察だより　11 月号

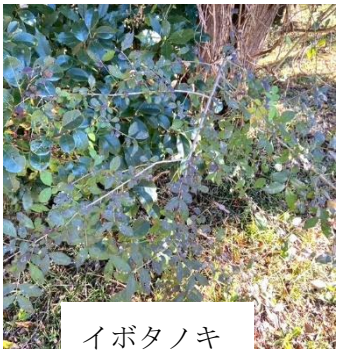
開催日時:2021年 11 月 28 日(日)　9:30～12:30
天候:快晴
テーマ:冬の準備をする生き物たち
参加人数・構成:　一般 9 名 (うち NACS-J 指導員 2 名)
コース:森の集会所 → 畑を通過 → 木道 → すり鉢池 → 障がい者スポーツセンター横の広場 → 木道 → 塚ノ杁池堤体 → 森の集会所

コロナウィルスの変異型:オミクロン株が多くなりつつあります。
冬の本格的到来が始まったこの時期、観察会当日、大変良い天気に恵まれた観察会になりました。名東自然倶楽部の他行事と重なったため、クラブ員の参加は少なかったのは残念でしたが、初めて参加の方も見え、楽しく視ることが出来ました。
(画像は別に日に撮ったものを含んでいます)

広場の植え込みをよくよく見れば・・

まずはじめは、広場のセンダンの木。
よく見ると根元に色々な樹や草が言わば、寄せ植え状態に成っています。マンリョウ、アオキ、イボタノキ、アオツヅラフジ、スイカズラ、クロガネモチ、ノイバラなど 1 カ所でこれだけ植えられて(?)います。中々、これからも楽しめそうです。

天然(?)の生け花になっているセンダンの木


イボタノキ

マンリョウ

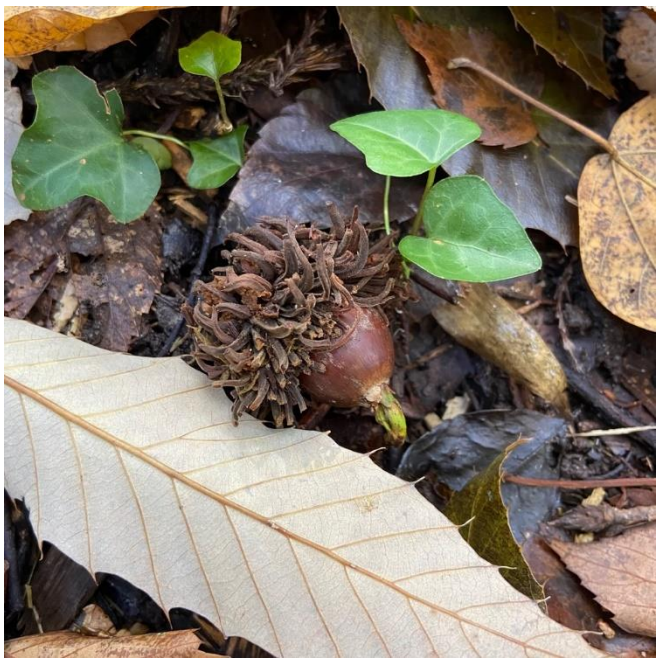
スイカズラ

アオツヅラフジ

クロガネモチ

身近な木でもよく見るととても面白い発見が出来ます。

ドングリたちはもう春の準備！



秋に落ちたドングリたちが動き始めています。ドングリの先がわれて（お皿でも横の部分でもありません)、根が出、地中にどんどん伸ばし、水分を吸って、乾燥しないようにして、春を待ちます。

春になると今度は同じ場所から芽を伸ばし、葉を広げます。

ドングリが落ちた後に枯れた葉が落ちるのは、ドングリが少しでも乾燥しないように実の上にカバーをしているのだとか・・

もう、春の準備は始まっています。

木道を通ってすり鉢池まで

フユノハナワラビ
秋に栄養葉と胞子葉を出す
冬緑性のシダです。

ミヤマガマズミ
美しく紅葉していました

ムラサキシキブ
沢山の実がなっています

ジョロウグモ
何かを捕食中でした

秋まで残ったアジサイの花
「秋アジサイ」の名で花材としても使用。陽の当たる所はピンク、裏は淡緑

頑張ったカキノキ
竹を抜いてその上まで伸びています

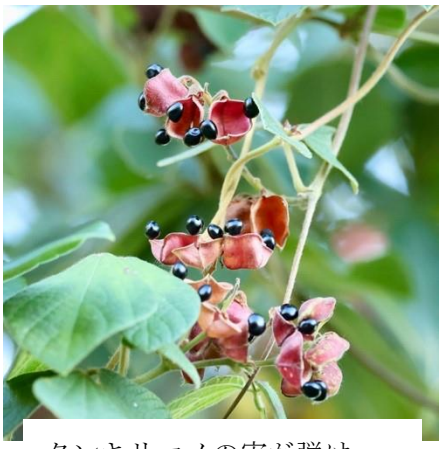
すり鉢池の回りから障がい者スポーツセンターの横を経て木道に

すり鉢池は翌日の 29 日に浚渫（しゅんせつ）作業があるために、その下準備の最中でした。

今回の観察会では昆虫などの動物関係が、見ることができなかったので、ジョウビタキのオスにここで出会えてホッとしました。

タンキリマメの実、アベマキの褐葉、イチョウの黄葉などを見ながら木道へ戻ります。

ジョウビタキ♂
よく見られる冬鳥。北国から海を越えて飛来。この時期、なわばりを持ち「ヒッヒッ」と鳴きます。



タンキリマメの実が弾け、飛び出た黒い種
中々面白い形です。名前の由来は実を食べると痰が切れるという俗説からとか・・。

イチョウの雌木の黄葉

【紅葉とはこんなこと】

ヤマハゼの紅葉（左）と黄葉（右）

アベマキの褐葉

葉緑素が分解し葉の中に元々あった黄色色素が残ったのが「黄葉」、葉の内部で新しく赤色色素が作られたのが「紅葉」で、実際にはこれが混ざって起こります。黄色の葉は日陰の葉に多いようです。

紅葉には他に「褐葉（かつよう）：褐色にかわる」があり、黄葉と同様に葉内にタンニン性の褐色物質が蓄積するためとされています。葉が何のために色づくかについては、植物学的には、葉の老化現象のひとつと考えられています。

何かのストレスがあったり、特定のアブラムシを忌避するために紅葉する、という研究

もあり、これからも新しい研究成果が出てくるでしょう。

キンミズヒキの紅葉
何かのストレス？

ドウダンツツジの紅葉
花も紅葉も楽しめます

ツタの紅葉
色が混ざったタイプ

ヤマコウバシの褐葉
冬でも葉が落ちないので
受験生に人気とか・・

ナンキンハゼの紅葉？黄葉？
これも色が混ざったタイプ

イノコヅチの紅葉
いわゆる、草紅葉

この他に見られた生き物たち

イタドリの種

←ヤブミョウガの実

白い花が咲いたヤブミョウガもこんな美しいブルーの実を付けます。中の種を取り出して見れば、なんと真ん中に丸い窪みのある不定形の種。

アオツヅラフジの種はアンモナイトの形、コブシの種はハート型など調べてみるとなかなか面白いです。

ミナミアオカメムシ

ハクセキレイ

メジロ

モズ

カラスウリの実

●観察会当日以外の１１月に見られた生き物たち

ヤツデ

この時期に花を咲かせる数少ない樹。ひとつの花に雄性期（左）と雌性期（右）があり、雄性期が先行する。同じ花から花粉を受け取らないようにする工夫の一つ。他にも性転換する植物はコブシやクサギなど珍しくありません。

オオカマキリの卵鞘（らんしょう）
カマキリの仲間は全て卵で越冬します。下見の際にはあったのですが・・。

ツチイナゴ
成虫で越冬します。眼の下の涙の痕のような模様が特徴。

水中にいたヤゴ（トンボの幼虫）
夏から秋に孵化、又は成虫になるまで数年かかる種類は幼虫で越冬します。

ヤマトシジミとヒヨドリバナ
幼虫越冬するシジミチョウ。
食草はカタバミ。近年分布が北上している種。

ルリタテハ
成虫で越冬します。食草はサルトリイバラやホトトギスなど。

ムラサキシジミ
成虫で越冬します。食草はアラカシやコナラなど。

ヒメアカタテハ
成虫や幼虫で越冬します。食草はハハコグサやヨモギなど。

ウグイス

1年中日本にいますが、冬は山手の個体が里に移動。鳴き声は藪の中で「ジュッジュッ」「ジャッジャッ」など。

キセキレイ

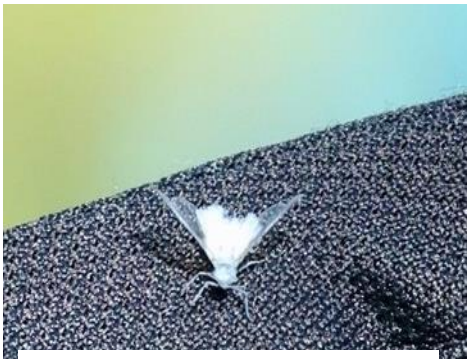
この鳥も1年中います。前述のハクセキレイと同じ仲間です。胸から体下面の黄色が美しい。

アオサギ

1年中見られます。日本にいるサギの仲間では最も大きい種類です。

オオアオイトトンボ

トンボの仲間では最も遅い時期まで、見ることが出来ます。



雪虫の仲間

アブラムシの仲間ですが、腹部に綿毛のような白いロウ物質をつけて飛ぶのでこの名があります。綿虫とも呼びます。

ツマグロヒョウモン。

ヒョウモンチョウの仲間で年に何回か発生するのはこの種類のみ。幼虫で越冬し食草はパンジーなどのスミレ科の草です。

ツチグリの仲間

キノコの仲間です。丸い部分を押すと、中央（中心）の穴から胞子の粉が煙のように飛び出します。（当日にも観察）

ヤブマメの弾けた莢と種

茎の一部から地中に枝が伸び、閉鎖花を付けた後に実をならせる変わった性質があります。

ヤブランの実（？）

実は皮が早くに剥げ落ちて光沢のある黒い実がむき出しで付くとか。ひょっとして種かも・・。

ムネアカ
　　ハラビロカマキリの卵鞘
白と灰色で斜めに枝などに付くのが特徴。見つけ次第、駆除しています。

ミシシッピアカミミガメ
今やどこの池や川でもこのカメを見ないところはありません。

●外来種もいました
左の２種は外来種です。
　日本の在来種を駆逐しつつあります。在来種のハラビロカマキリやイシガメなどが激減しています。
　ムネアカハラビロカマキリは輸入した竹ぼうきに卵鞘が付いていたことが、ミシシッピアカミミガメは人が飼育できずに放したことが、発端になっています。

ペットを求めるときは**「最後まで面倒を見ることが出来るのか？」**よく考えて決めましょう。

外来種防止については
- **環境省・農林水産省　生態系被害防止外来種リスト**
  https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/files/06_rist_a3_c.pdf
- **環境省　日本の外来種対策**
  https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/outline.html

　などご覧になって頂けると良いでしょう。おすすめします。

塚ノ杁池からは絶景を見ることが出来ました

塚ノ杁池の堤体を巡る途中に御嶽山をみるスポットがあります。

　塚ノ杁池の堤体を巡る途中に御嶽山をみるスポットがあります。
この日は雲一つなく、珍しいほど、良く見えました。
　今回の観察会のうれしいおまけです。

載せていない生き物たちが沢山います。
　毎回、新しい発見があります。一緒に歩きませんか？

１２月の観察会はお休みです。
次回の自然観察会は　**来年の１月 23 日（日）テーマは「冬芽と葉痕・野鳥の暮らし」です**